

大和公民館だより

発行者 大和公民館
〒409-1203 甲州市大和町初鹿野 1693-1
館長(有賀) [REDACTED] 主事(三枝) [REDACTED]

◇ 今月の公民館事業は

新型コロナウイルス感染防止のため、9月から予定していた「童謡教室」は、開始の時期をしばらく先送りいたします。また、公民館開設以来開催してきた「自彊術教室」は、都合により中止とします。永年にわたりご指導をいただいた岸川 直榮さんに御礼申し上げます。

なお、公民館を会場とするサークル、教室等のうち、「ヨガの会」及び「のびのびチビ子広場」は、感染防止対策をとったうえで再開しました。詳細は主催者にお問い合わせください。

また、これ以外のサークル、教室等の再開の予定等についても主催者にご確認ください。

☆☆

笹子峠の西の麓の民話・伝説

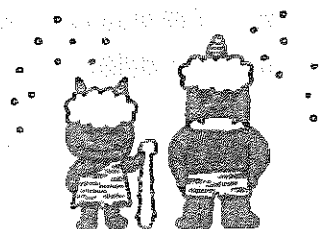
各地には昔から伝わる民話・伝説があります。笹子峠西の麓（日影地区）も同様です。これらの民話・伝説は、親から子へと伝えられていました。日影出身の平山 榎太さん（元大和村役場勤務 平山 裕美さんの父）は、親から聞いた話を文章に書き留めて地域に伝わる記録として残しました。地域の貴重な財産です。今回は、その一部を掲載します。

「駒飼石と天狗さん」

現在の天狗橋のちょっと上に、小山のような大石があり、長雨が続くと大水が出て、この大石のために瀬が変わり村中に流れ込んで、毎年、水害に悩まされた。

鬼窪平に鬼の親子が住んでいた。里の子供が楽しく遊んでいるのを見た小鬼は、一緒に遊びたいと思った。そこで小鬼は、「遊びたいよ」と親鬼にせがんだ。親鬼は里に行き、一緒に遊ばせてくれと村人に頼んだ。その代わりにあの大きな石を動かして、水害にならないようにすると約束した。里の人もお安いことだと子供たちと遊ぶことを約束した。小鬼は喜んで毎日村の子と楽しく遊んだ。

ところが、「鬼の子と遊ぶと角が生える」と、どこからともなく
(裏面へ続く)

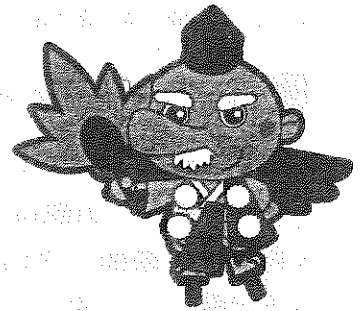


噂が流れ、子供たちは小鬼と遊ばなくなった。小鬼は泣いて帰り、親鬼にこのことを告げた。親鬼は怒って約束が違うと大石を元通りにしてしまった。そして、鬼の親子は何処ともなく去っていった。

さあ大変、それからは毎年水害に悩まされた。なにしろ小山のような大石どうする手立てもないので村人は寄り合いをし、水害にならぬよう神様にお願いすることに決まった。

村人は大石の前に集まり、一心にお祈りをした。真心が通じたのか素戔鳴尊（すさのみこと）の化身であるという天狗さんが現れ、願いを叶えてしんぜようと大石を動かし、水害から守ってくれた。それから村人は安心して暮らせるようになった。そして祠を造り、素戔鳴尊を祀った。

長い年月がたって、大石の下の砂が流れ大石が動いて、またも元に戻り水害に見舞われるようになった。村人は相談して、大石を取り除くことにした。全部、細かくするのはもったいないと、



鳥居を刻み鎮守様に奉納した。また、一部を土台として駒飼の由来の碑を建てた。惜しいことに明治40年の大洪水で芭蕉の句碑と共に流出してしまった。

今も素戔鳴尊を祀った祠が天狗橋川端にある。昭和の始め自動車道がつくられた際、橋が架けられ橋の名前をつけるとき、古老の話を聞き又古事により「天狗橋」と名前が付けられたとのことである。

※ 鬼窪平は、日影地内にある地名です。

※ 自動車道は、現在の県道212号日影笹子線です。

※ 「天狗橋」は、日影地内を流れる笹子沢川に架けられ、集落の上にあります。